

晩播きの収量は標播きの85%で、シロセンナリとオクシ

表 1 育成地における試験成績

栽培条件	品 種 名	開 花 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	主 茎 長 (cm)	分 枝 数	生育中の害		a 当たり収量 (kg)		子実重対比 (%)		百 粒 重 (g)	障害粒程度			品 質
						蔓 化	倒 伏	全 重	子 実 重	標準 品種	オク シロ メ		紫 斑	褐 斑	裂 皮	
標準播	スズユタカ	8. 2	10. 16	73	3.7	無~微	無~微	55.7	28.2	111	104	24.5	中	無	無	中中
	シロセンナリ	7. 30	10. 12	69	2.4	無~微	無~微	49.1	25.5	100	94	24.4	少	無	無~微	中中
	オクシロメ	7. 26	10. 15	63	2.8	無	無	52.4	27.0	106	100	22.5	微~少	無	微~少	中中
	ライコウ	7. 28	10. 11	75	4.2	微	微~少	53.2	26.9	106	100	23.4	中	無	微	中中
晩播	スズユタカ	8. 17	10. 26	58	3.2	無~微	無~微	41.7	24.0	126	118	22.8	少	無	無	中中
	シロセンナリ	8. 17	10. 28	51	2.1	無	無	32.7	19.0	100	94	21.5	微~少	無	無	中中
	オクシロメ	8. 12	10. 24	52	2.3	無	無~微	34.9	20.3	106	100	20.9	少	無	無~微	中中
	ライコウ	8. 13	10. 22	56	3.4	無~微	無~微	34.3	19.6	103	97	22.0	少~中	無	無	中中

注. 標準播き：昭和 52 ~ 56 年平均，晩播き：昭和 54 ~ 56 年平均。

ロメの 75%，ライコウの 73% に比べてはるかに優れており，晩播適応性が高いと考えられる。

晩播適応性については，図 1 に示すように秋田，山形，福島県の東北 3 県，栃城，茨城，新潟の各県において試験を行っているが，いずれの県においても晩播きで多収であり，適応性の高いことが認められる。

4 主要病虫害抵抗性

線虫抵抗性： スズユタカはシストセンチュウに対する抵抗性が強いことが認められている。表 2 に示したように，線虫の生息密度を高めた育成地圃場（抵抗性の弱いシロセンナリの平均収量が a 当り 12.2 kg で，普通圃場の 52 % 減）での収量が平均 23.4 kg で，17 % 減にとどまっている。スズユタカの減収程度はオクシロメ 16%，ライコウ 20 % とほぼ同程度で，平均収量はこれらの品種よりやや高くなっている。

表 2 シストセンチュウ生息密度の高い圃場での成績（育成地）

品 種 名	a 当たり収量 (kg)		子実重対比 (%)			百粒重 (g)	普通圃対比 (%)
	全重	子実重	標準品種	オクシロメ	普通圃		
スズユタカ	44.4	23.4	192	103	83	23.8	97
シロセンナリ	24.5	12.2	100	54	48	18.3	75
オクシロメ	42.2	22.8	187	100	84	20.9	93
ライコウ	39.7	21.5	176	94	80	21.9	94

注. 昭和 52 ~ 56 年平均。

ウイルス病抵抗性： スズユタカはダイズモザイクウイルス A，B，C，D の病原系統のいずれにも抵抗性を有し，ウイルス病の被害の多い場所でもほとんど被害が発生しない。ウイルス病の発生が激しい山形県農試と福島県農試会

津支場の奨励品種決定試験成績の一部を表 3 に示したが，山形県農試では，奨励品種 3 品種に比べて極めて多収であり，褐斑粒の発生はデウムスメと同様に“無”で，品質の評価が高い。また，福島県農試会津支場でも奨励品種 3 品種より極めて多収で，褐斑粒の発生も少なく，品質の評価が高い。

表 3 ウイルス病の発生の多い場所での成績

品 種 名	a 当たり収量 (kg)	子実重対比 (%)	障害粒程度	品 質
	子実重	標準品種	褐 斑	
山形農試				
スズユタカ	40.2	121	無	上下~中上
コケシジロ	33.3	100	中~多	下上
オクシロメ	28.1	84	多	下上
デウムスメ	29.8	89	無	中中~中下
福島農試会津				
スズユタカ	41.8	161	微~少	上中~上下
シロセンナリ	25.9	100	甚	下上
ライコウ	30.3	117	多	中中
エンレイ	30.7	119	多	中上

注. 山形農試は昭和 53 ~ 56 年平均，福島農試会津は昭和 55 ~ 56 年平均，いずれも標準播き。

5 総 括

スズユタカは，広域で多収性が認められ，晩播適応性の高い品種である。

ウイルス病に強いので山形県，福島県などの多発地ではこの点からも重要性が高まるものと思われる。また，シストセンチュウに抵抗性を有するので，発生が懸念される地域での作付が期待される。

本品種栽培上の一般的な注意事項としては，適地の北部地域や高冷地では極端な晩播きをしないこと，適地の南部地域では早播きを避け，6 月下旬前後の晩播きを行うことが望ましい。